

44.スルメイカ

主な漁業と漁期

いか釣り：6～翌1月
定置網：6～11月
沖合底びき網：9～翌1月



太平洋～オホーツク海海域

生態

◆分布・回遊

秋季発生群は、9～12月に日本海南西部～東シナ海でふ化した後、成長しながら日本海を北上し、主群は7月頃に道南太平洋海域に來遊します。冬季発生群は1～4月に東シナ海でふ化した後、成長しながら太平洋と日本海を北上し、主群は道南～道東太平洋に8月頃來遊します。8～9月に、最も北の海域まで分布を拡げ、10月以降に産卵のため南下を開始します。根室海峡～オホーツク海沿岸へは11月頃來遊します。

◆産卵期・産卵場

秋季発生系群の産卵期は主に10～12月で、産卵場は北陸～対馬海峡付近、東シナ海と推定されています。冬季発生系群は、産卵期は12～翌年3月で、産卵場は主に東シナ海と推定されています。

◆成長・成熟

月齢	外套長(cm)	体重(g)
6ヶ月	18	121
7ヶ月	22	233
8ヶ月	26	361
9ヶ月	28	484

*) 外套長：菅原ほか(2013)から計算
*) 体重：山下ほか(2014)より
*) 寿命はほぼ1年

◎成熟年齢・外套長

- ・オス：ふ化後約9か月で成熟しメスと交配します。
- ・メス：ふ化後10か月以降、オスより遅れて成熟します。

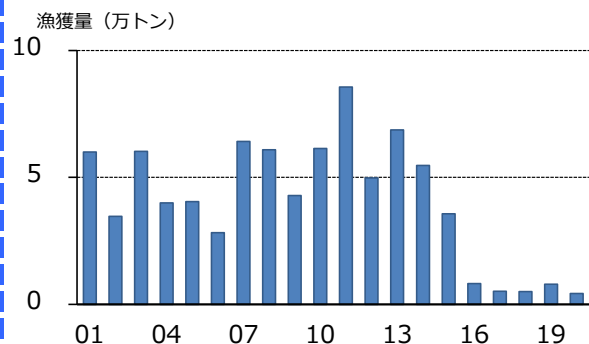
※道東太平洋～オホーツク海では、メスの成熟個体はほとんどみられません。

資源評価

[評価年] 4月～翌3月

[来遊量の指標] 漁獲量

2020年度の漁獲量は4,246トンで、前年より減少し、1990年以降で最も少なくなりました。2020年度の北海道への来遊水準は低水準だと判断されました。令和2年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価によると資源量はMSYを実現する水準を下回っており、短期的に資源が回復する可能性は低いと考えられます。



※都道府県も参加した国の資源評価結果を参考に本道周辺海域の資源状況を評価しています

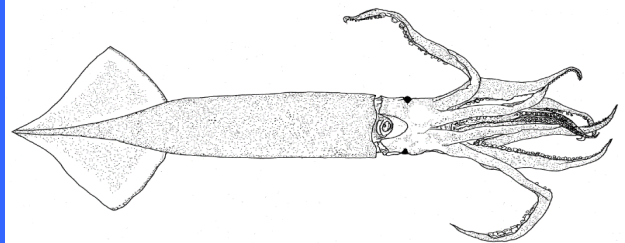
資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○TAC(漁獲可能量)管理

2021年漁期TACは、全国57,000トン、北海道知事管理分は若干量です。(2021年10月現在)

※知事管理のいか釣り漁業は5ト未満船です。



☆広域回遊魚種のため、資源管理には国・他県との連携した取り組みを継続することが必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
北海道立総合研究機構 釧路水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477
電話 0154-23-6222